

念仏の声

編集・発行：「御同朋の社会をめざす運動」岐阜教区委員会広報部
〒500-8882 岐阜市西野町3丁目1 電話(058)262-0231 FAX(058)263-7353
http://www.hongwanji-gifubetsuin.jp/ E-mail:info@hongwanji-gifubetsuin.jp

2018(平成30年)10月1日発行 VOL.241



特集

子どもたちの笑顔のために

覚成寺「たま寺」を訪れて ③

専応寺「夏休み寺子屋食堂」を訪れて ⑤

活動報告 岐阜教区第62回サマースクール ⑥

・如燈風中／災害支援報告 ②

・法話 - 橘 行信 ⑦

・2018第2回西別院盆おどり報告 ⑧



如燈風中



岐阜教区教務所長
御同朋の社会をめぐる運動
岐阜教区委員会委員長

高原 眞 見

今年の夏は殊の外厳しい暑さで、わたしたちの地域は、全国で連日トックラス入りでした。大きな気候変化の中にいのちをいただいていることを思います。

申すまでもないことですが、近年の科学の発達はめざましく、「古気候学」という古代からの気候状況を知る上で、大きな手がかりとなっています。

その学説によると、日本では、この度の暑さが有史以来はじめてのことではなく、平安中期から鎌倉末期にかけても同様のものであったことが知らされます。鎌倉時代といえ、宗祖親鸞聖人が生き抜かれた時代ですが、その暑さや水不足から干魃や飢饉が起り、疫病が流行し、津々浦々で内乱や戦乱があった世であったと聞き習うところに頷けます。

その厳しい時代背景での宗祖のご苦勞はいかばかりであったことかと往時を偲び、私たちにお念仏のみ教えをお伝えくださったご生涯に、あらためて感謝の気持ち湧いてきます。そのご恩に少しでも報いようとする気持ちを誓いに化え成し、行動につなげていきたいものです。

宗門では、私たち自身一人ひとりがみ仏さまに支えられ、その喜びの中で生きていることの自覚から、支えて下さるものの安心感と喜びを実感する姿を通して、次代を担う子や孫に伝えるべく、日曜学校等の少年連盟による献身的な活動、「キッズサンガ」「子ども若者ご縁づくり」の推進に教区内僧侶門徒諸氏のご協力をいただいで自他ともに心豊かに生きることのできる社会の実現に向け取り組んでおります。

後述の本誌掲載記事を是非ともお目通しくださり、皆さまの一層のご理解とご協力お願い申し上げます。

「平成30年度7月豪雨」安芸教区にボランティア参加



8月21日の夜 岐阜から広島に向けて出発し、22日早朝から23日夕刻まで2日間安芸教区災害ボランティアに、岐阜教区勤式儀礼振興会有志7名が自動車1台で参加した。作業は、安芸教区災害ボランティアセンター(本願寺広島別院内)からの指示により、安芸郡坂町地区の西昭寺(安芸教区安芸北組 河野法誓住職)に派遣され、半壊した庫裏に堆積した土砂の撤去、浸水箇所の内装撤去を行い、



更に接近中であつた台風20号への対策として土嚢作りと積み上げ作業を行った。現地スタッフから近況を聞くと、お盆過

ぎからメディア報道が薄れていくとボランティア参加者が3分の1程度に減り、被災家屋の復旧はほぼ民間ボランティアに委ねられた状況のなか、猛暑で慣れない作業は遅々としており、まだ手付かずの家屋が残っている現状である。引き続きのボランティア参加が必要であると思われる。

また、7月18日から安芸教区と備後教区に支援物資の搬送と現地視察のため、教務所職員2名が自動車1台で出向した。被災地域では、通行可能な道が限られ、また災害支援の搬入車で渋滞が発生し、移動行程に支障をきたした。支援物資は、事前に各教区災害対策センターに相談し、扇風機20台、土嚢袋400枚、飲料水60ケースを届けた。



覚成寺「たま寺」を訪れて



6月27日、安八郡安八町にある覚成寺で開催されている「たま寺」を訪ね、覚成寺副住職大平ゆう子さんにお話を伺いました。

1 お寺で子どもを集めて「たま寺」を始めたきっかけはなんですか？

普段どこで遊んでいますか？と子どもたちにアンケートを取ると、全国的にシヨッピングモールなどの商業施設と回答する子どもが増えていると聞きます。覚成寺の周りにはまだ商業施設は何もなく、子どもたちが自転車で町内中を走り回ったり、神社やお寺で遊んだり、農業用水路でザリガニを取ったり、そんな風景がまだ残る地域です。

子どもたちの中には覚成寺お経教室に参加経験があり、本堂内に冷水ウォーターサーバーが有ることを知っていて、その水を飲みまに本堂に来てそのままで涼んでいく子が出始めました。

幼いころ覚成寺お経教室に通っていた子どもたちは、高学年になると塾や習い事が忙しくなり、中学生になると部活がはじまり、お寺に遊びに

来なくなる現象がずっと続いていたのに、急に中学生や小学生の居場所としてお寺が求められていると感じました。

夏休みだけじゃなく子どもたちの居場所をつくりたい。そんな思いで、まず住職がSNSで繋がっている県内外の友人や、覚成寺お経教室に通っていた若者などに相談をしました。本堂に集まれる人は実際に集まって会議を開きました。遠方の方や、仕事や家庭事情で集まらない方々とはネット上で意見交換をおこないました。沢山のアドバイスをもらい第1回お試し「たま寺」にこぎつけました。

2 「たま寺」を始めてどれくらいになりますか？

2016年5月に第1回お試し「たま寺」を開催したので、3年目に入りました。

3 参加者の年齢層はどれくらいですか？

スタート当初は小1〜中2でしたが、現在は乳幼児を含む兄弟2〜3人を連れたママの参加も増えてます。またスタート当初参加者だった子が高校生となり見守りスタッフとして参加してくれています。

4 始めたころの参加人数、また今現在は何人くらいの参加者がいますか？

2016年5月に第1回お試し「たま寺」を開催しました。顔を知っている近所の子どもの家15軒に「たま寺趣旨説明文と日程表」をポス

ティングしました。しかし、開催してみると22人の子どもたちが参加してくれました。現在は、フードスタッフ6人、見守りスタッフ3人、子ども&親子30人、40人、毎回数約40〜60人ほどです。

5 「たま寺」のやりがい、やっていて良かったな

と思うことはどんなところに感じますか？

子どもたちは「知らない人に話しかけられても、挨拶してはいけない。」と学校や家庭で教育されています。昔のように近所の方々にはようの挨拶ができる子どもが激減しています。

「たま寺」で出会った子どもたち、その保護者の方は、学校の登下校時や、道で出会った時に遠くからでも挨拶をしてくれる様になりました。見守りスタッフ、フードスタッフの方々もすごく喜んでいきます。

人生のモデルケースを身近な少数の大人でしか観察できずに過ごしてきた子どもたち&元子どもだった若い世代に人生の多様性を伝える良い時間になっていると思います。

「いろいろな大人がいるんだから、いろいろな子どもがいてあたりまえだよ！」

「自分が悪かったなと思ったら、相手が子どもでも素直に謝る大人もいるよ！」

「自分の不幸、悩みを声に出して人に言える子は、人に愛され助けてもらえるよ。だから、人に迷惑かけてもいいんだよ。一緒に悩んだり悲しんだり、喜んだりしてくれる大人はいっぱいいるよ。」



「たま寺」をやっている苦労したこと、また、辛いと感じたことはありませんか？

6 「たま寺」をやっている苦労したこと、また、辛いと感じたことはありませんか？

一番苦労していることは、見守りスタッフ人数の確保が難しいことです。会の立ち上げに賛同してくれているスタッフは、企業や会社で働いている世代が多いです。

また、食事を提供するからには参加者にアレルギーの有無を聞かなければならないという重大なことにも気がつきました。保護者の緊急連絡先や、住所や生年月日といった個人情報を知る必要が出てきましたが、たま寺に参加する子どもの親の中には、理解が得られず、個人情報参加している子どもが数人いる事実が辛いです。

7 子どもと接する時に気をつけていることや、大切にしていることはありますか？

多様性をお互いに認め合い、命に優劣をつけないことを大切にしています。スタッフに注意されても本堂内で走ったり、暴れたり、大人の

気を引くためにわざと悪いことをしたり、深く考えずに言葉の暴力をふるう子がいます。きつと家庭や学校だったら扱いにくい悪い子のレッテルがすぐに貼られてしまうでしょう。

そういう子どもがいたときに、みんなの前で頭ごなしに怒鳴って大人に都合の悪い行動をやめさせることは簡単です。表面上の出来事だけを見て善悪のジャッジを下すのはたやすいですが、問題行動はまた繰り返されます。本当の解決にはなっていません。学校や家庭で嫌な目にあっていて八つ当たりしているのか？私たちが観ていなかっただけで、もっと深い出来事が起きているのか？まず一人一人を観察して、何が必要なのか？スタッフも考えようと思っています。実際に、問題行動だらけだった子が、数か月後には心優しい先輩として小さな子の遊び相手を買って出てくれる頼もしい存在になりました。人は縁によって良くも悪くもなるものであると教えられました。

8 夕食の準備などお手伝いの方々はどのようなご縁をいただいておりますか？

フードスタッフさんは、覚成寺坊守を中心に現在6人です。近所の門信徒さんはお寺の行事の際にはお齋も作ってくれる方々で寺の台所を熟知している頼もしい方々です。また、お孫さんがたま寺に参加しているので「何かお手伝いをさせてほしい」と申し出てくださった方もいます。なので全員が覚成寺の門徒というわけはありません。

専応寺「夏休み寺子屋食堂」を訪れて



8月9日、岐阜市長良にある専応寺を訪れ、夏休み寺子屋食堂を取材させていただきました。当日は、若院の高賀真さんからお話を伺いました。

寺子屋食堂の日程は、勤行(らいはいのうた)―勉強(30分)―自由時間(30分)―昼食―平和の鐘(自由参加)―解散でした。また、参加者の子どもたちに何が一番楽しかったか聞いてみますと「勉強が楽しかった」「自由時間に観た映画が楽しかった」「食事が楽しかった」という声が聞こえてきました。

Q 夏休み寺子屋食堂をはじめたきっかけは?
 A 昨年までは、サマースクールを開催していましたが、お手伝いをいただいていた仏教婦人会の皆さまの高齢化に伴い、1泊2日の日程のサマースクールから夏休み寺子屋食堂を開催するきっかけとなりました。

Q 今年で何回目ですか?
 A 夏休み寺子屋食堂は今年が初めてで今まではサマースクールを12年程継続して開催していました。

Q 今年初めて開催の夏休み寺子屋食堂についてやってよかったことは?また、苦労したことは?
 A やってよかったことは今までお寺にご縁のなかったご家庭から申し込みがあり、参加してくださったことです。また、苦労したことは短い時間の中で仏様のみ教えを子どもたちにどのように伝えるかということです。

そのため、難しい仏教用語をいわずに簡単な言葉を使ってお話をするようにしています。そして、来てもらった子どもたちに焼香や合掌・礼拝などの作法を体験してもらったり、一緒におつとめすることを心掛けています。

Q 年齢層は?
 A 今回の夏休み寺子屋食堂は小学生を対象として行っています。長良小



学校・長良東小学校の児童を対象に参加を呼びかけています。また、友達同士での参加が多いです。参加費は子ども200円・大人300円としています。

Q 夏休み寺子屋食堂の今後の展望・課題について

A 今後の展望としては、無理のない範囲で継続していきます。いわゆる「子ども食堂」ではなく、おまじりや勉強もする日曜学校のような場にしたいと考えています。親さんたちから意見を聞きながら反映させていきます。また、今後の課題につきましては初めてお寺に来る子どもさんがほとんどで、とまどっている雰囲気がありましたので、おまじりや仏事作法の指導の面で工夫が必要と感じました。お泊まりサマースクールの感覚とは違い、短い時間内でポイントを絞る必要があると思います。

岐阜教区 第62回 サマースクール 報告

平成30年7月30日・31日に板取キャンプ場で開催しました、第62回岐阜教区サマースクールの活動報告をさせていただきます。今回は、子ども参加者47人(年長〜中1)、スタッフ・引率者36人(高校生スタッフ1人)でした。各回サマースクール実行委員会が立ち上がり、参加してもらえる子ども達のために、行き先や活動内容等を熟考しながら、サマースクールを通して子ども達への少年教化と、参加スタッフ(若手スタッフ)の研修という二つの理念のもとに毎年小学校の夏休み期間中に開催しております。

さて、一日目のスタートは岐阜別院本堂内での、開校式・オリエンテーションから始まります。開校式前には合掌の作法や念珠・経本の扱い方を確認しました。開校式では勸行の調声を山田 寿さん(小6)、誓いの言葉の代表者を笹原理紗子さん(小6)が大役を務めてくれました。引き続きオリエンテーションでは班分けゲームを行います。始まったばかりで子ども達は緊張気味でしたが、班決定時の安堵の表情がとても印象的でした。

その後、バスに乗り込み板取キャンプ場に到着。昼食時に食前食後の言葉をしっかりと確認しました。そして川遊びです。かなり水温が低かったのですが、そんなことお構いなしの子ども達は、スタッフの心配をよそに、用意した浮き輪や水鉄砲などで大はしゃぎです。途中から班対抗ゲームも行われ一気に班のお友達の間が縮まりました。

そして、夕食前に板取川温泉で入浴し、川遊びで冷えた身体をしっかりと温めました。その後はお待ちかねの夕食です。夕食はカレーライスをいただきます。しかし、ただ食べるだけでなく、各班ごとに薪を使い飯盒でお米を炊いてもらいました。子ども達



のゲームや花火をしたりと、さすがに子ども達は遊び疲れた様子でした。

二日目の朝はお朝事とラジオ体操から始まります。朝食は自分で作る「おにぎらず」です。具がふれるほど詰め込んだおにぎらずを頬張る子ども達の姿は最高です。そして二日目最大のイベントであるウォークラリー。途中にはいくつかの試練(ゲーム)が待ち受けます。すべてクリアした先には絶景・川浦渓谷が待っています。子ども達は皆感動・・・、のほろほろと、猛暑の影響もあり絶景そっちのけで、かき氷に夢中でした(笑)。キャンプ場に戻った班から焼きたての窯焼きピザで昼食をとり、岐阜別院に帰りました。

このサマースクールに参加した子ども達も、紛れもなく仏縁によって集まった子ども達です。この尊い仏縁のサマースクールで思いっきり楽しんでもらいたいのは当然ですが、それを通して、物を大切にすることや、人を思いやること、そして

は、上手に炊けるか心配そうでしたが、ご飯がうまく炊けており、笑顔を見せてくれました。達成感と日々の食事の有り難さを感じてくれたに違いありません。そしてキャンプ場での夜の締めくくりはやはりキャンプファイヤーです。スタッフがファイヤードانسを披露したり、火を囲んで

仏法を身近に感じてもらえることを願って、今回のサマースクールを実行してまいりました。来年も今年の経験を大いに活かしてより一層充実したサマースクールにしたいと考えております。

サマースクール実行委員長
岐稲組真願寺

醍醐 秀貴



ろうそく
蠟燭をフーっ

—「おばあちゃんが大好きだった阿弥陀さまに聞いてみるとね、おばあちゃんを必ずお浄土ってところに生まれさせるって約束してくれとるんやよ。そのお浄土でね、おばあちゃんを仏さまに成らせてみせるって。仏さまとして生まれたおばあちゃんね、カズ君のいのちをおばあちゃん自身のいのちと同じ一つのいのちと思ってくれる。だからカズ君の痛みはおばあちゃん自身の痛みだと感じて本気で助けようと頑張ってくれるんやと。おばあちゃんね、そんな仏さまとして生まれられることをすごく喜んでいたんやよ。自分のこともカズ君のこともちゃんとしてよく知っていてくれるから阿弥陀さまのこと大好きだったんだよ」—

おばあちゃんの子の男の子の話です。大好きなおばあさんが亡くなられ、お通夜お葬式の最中も悲しさ寂しさのためカズ君はずっと泣いていました。そんなカズ君に、私は阿弥陀さまの救いの話をしました。会えば何度も何度も話しました。そしておばあさんがその阿弥陀さまの救いをいつも喜んでいたことを伝えました。「阿弥陀さまが自分を育て仏へと仕上げてください」とおばあさんはいつも嬉しそうに聞かれていたことを伝えました。

一年が経ち、おばあさんの一周忌の日。お仏壇でお経を読んだあと、カズ君が蠟燭の火を自分が消すと言い、二本の蠟燭を一息でフーっ

消しました。それを見たおじいさんが「これで消したらあかん。うちわを使わんか」と諭しました。すると「なんでフーってやったらいかんの？お誕生日はフーってやるんか」とカズ君は強く訴えました。「誕生日とは違うんや。とにかく口ではあかん」とおじいさんはどうにかやり過ぎそうとしましたが、カズ君は不満気でした。

おじいさんの作法はもろろん正しいものです。浄火であるお灯明は私たちの息で吹き消すことは致しません。しかし、カズ君のその行動は私には嬉しく思えました。「今日は誕生日やもんね？」と私が言うと、カズ君はニコッと笑

い「うん」と。

「往生浄土」「往生即成仏」は阿弥陀さまの独り用きによるものです。「どんな場所でもどんな時でもどんなことがあってもあなたを見捨てはしない。あなたを見放すことはしない。だから今のいのちをどうか精一杯生きておくれ」との阿弥陀さまのよび声を聞き、今そのお心を疑いなく信じ喜ぶなかで生きるものは、命終には必ずお浄土に仏として生まれ活躍させてくださる、と親鸞聖人はお示しくされました。

おばあさんの往生成仏は私の知れるところではありませんが、おばあさんがカズ君と阿弥陀さまのご縁となってくれていることは確かなことでしょう。おばあさんが喜んだように、自分もまた阿弥陀さまに知ってもらえているんだという喜びをカズ君と共に深めていきたいものです。

本願寺派布教使
中川北組圓勝寺
橘 たちばな
行信 ぎょうしん

さまざまな布教使によるご法話が聴けます
「西本願寺の時間」

岐阜放送AM1431KHZ
毎週土曜日 午前6時25分～6時35分

絶賛放送中

西別院盆おどりの報告

昨年に引き続き「西別院盆おどり」が、8月7日に本願寺岐阜別院境内にて開催された。今年は午後5時より「ちびっこ郡上踊り体験」を行い、ちびっこ約150名が岐阜伝統の「春駒」や「かわさき」を体験した。午後6時から、郡上踊りの保存と伝承に努める新正春駒会の生演奏で、一般参加の郡上踊りを実施。3000人を超える来場があり、境内も熱気に包まれた。午後7時半からは、ライトアップされた本堂向拝にて香光雅楽会による舞楽「蘭陵王」(写真参照)が催され、多くの方が真剣なまなざしで見入っていた。参加者からは、「昔の『西御坊さま』と親しまれ、お彼岸に屋台が立ち並んでいたころを思い出します。これからも年寄りから若い方まで集う場所にしてほしい。」と伺った。最後には、お楽しみ大抽選会があり、TDLやUSJのペアチケットの景品に大いに盛り上がりを見せ、閉会を迎えた。



新職員紹介

平成29年12月1日より入所いたしました。よろしくご指導いただきますようお願いいたします。



名和 裕幸
(丸一組浄明寺)

平成30年4月1日より入所いたしました。よろしくご指導いただきますようお願いいたします。



衣笠 顕也
(山陰教区鳥取因幡組願正寺)



吉田 尋子
(臨時勤務員)

退職者報告

平成30年3月31日付で退職いたしました。奉職中にご指導いただきありがとうございました。

安藤 勇哉 (臨時勤務員)
小森 萌 (臨時勤務員)

お知らせ

岐阜別院「報恩講法要」のご案内

- 12月4日(火) 日中法要 午前10時より
速夜法要 午後1時より
 - 12月5日(水) 日中法要 午前10時より
速夜法要 午後1時より
初夜法要 午後7時より
 - 12月6日(木) 日中法要 午前10時より
- 講師 大分教区速見組正善寺
本願寺派布教使 藤井邦磨 師

報恩講「聞法のつどい」

12月6日(木) 報恩講日中法要引き続き

- 講師 華陽組信浄寺
本願寺派布教使 野田了雄 師
- 岐阜組法光寺
本願寺派布教使 宇野淳信 師
- 報恩講法要講師 藤井邦磨 師

編集後記

記事中のいくつかの略称について注釈します。SNS(3ページ)はソーシャル・ネットワーク・サービスの略で、インターネットを通じてさまざまな人と交流できるサービスのことです。また本ページのTDLは東京ディズニーランド、USJは大阪のユニバーサル・スタジオ・ジャパンの各略称です。